

2015年10-12月期四半期別GDP速報（1次QE）  
公表に際しての石原経済財政政策担当大臣談話

2016年2月15日（月）

1. 本日公表した2015年10-12月期GDP速報は、実質成長率は前期比▲0.4%、年率に換算すると▲1.4%となった。在庫を除いたGDPである最終需要は前期比▲0.2%、年率に換算すると▲0.9%となった。

この要因としては、記録的な暖冬により冬物衣料品などが大きく落ち込んだことなどから、個人消費が前期比▲0.8%となったことなどが挙げられる。

名目成長率は前期比▲0.3%、年率に換算すると▲1.2%となったが、GDPデフレーターの上昇もあり前年同期比では2.0%のプラスとなった。

また、海外での稼ぎ等も含めた我が国全体の所得（国民総所得、GNI）は、実質ベースで見ると、原油価格下落の影響などもあり前期比0.1%、年率に換算すると0.3%増加となった。

一方、2015暦年については、実質成長率は前年比0.4%と2年ぶりのプラスとなり、名目成長率は前年比2.5%となった。また、国民総所得（GNI）の前年比は実質で2.4%、名目で3.0%となった。

世界的なリスク回避の動きから金融資本市場の変動がみられるが、我が国の経済の現況については、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなどファンダメンタルズは良好であり、その状況に変化があるとは認識していない。

2. 今後については、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復に向かうと見込まれる。ただし、中国や世界経済の変動の影響を受けやすい資源国を始めとする新興国の動向や、市場の動きを緊張感をもって注視してまいりたい。

3. 政府としては、デフレ脱却・経済再生を更に前進させていく。このため、平成27年度補正予算を迅速かつ着実に実施するとともに、平成28年度予算及び関連法案の一日も早い成立をお願いしたい。また、高い水準にある企業収益を賃金や設備投資に更に結び付けることで、経済の好循環を更に拡大してまいりたい。

（以上）